第３学年　英語科　単元名「Lesson5　Stevie Wonder - The power of music」

１．目標

○　関係代名詞の主格（who / which / that）を用いた文の構造や語順について理解し、話したり書いたりして相手に伝えることができる。【外国語表現の能力】

○　スティービー・ワンダーの半生を読み取り、いろいろな生き方がある、ということを考える。

【言語や文化についての知識・理解】

２．指導計画（９時間扱い）

見通す　取り組む　振り返る

①時　関係代名詞（who）を用いた文の構造を理解し、インタビュー活動を行う。

②時　「幼少期のスティービー・ワンダー」の内容を理解する。

③時　関係代名詞（which）を用いた文の構造を理解し、表現活動を行う。

④時　「スティービーの転機」の内容を理解する。

⑤時　関係代名詞（that）を用いた文の構造を理解し、表現活動を行う。

⑥時　「他人を救う歌」の内容を理解する。

⑦時　「世界をよりよい場所に」の内容を理解する。

⑧時　関係代名詞のまとめの問題に取り組む。

⑨時　関係代名詞を使って、グループで話し合い活動を行う。　←学び合いの例

３．第⑨時について

○目標　関係代名詞（主格）を用いて、まとまりのある英文を書くことができる。

【外国語表現の能力】

見通す　取り組む　振り返る

活動①　歌　【一斉】

活動②　Input 活動　【ペア】

言えない所は、ペアが相手に教える。

活動③　本時の目標を確認し、自己評価カードに記入する。

課題「関係代名詞を使って、お気に入りの人が紹介できるようになろう！」

活動④　関係代名詞（主格）の復習をグループで協力して行う。　【グループワーク１】

T :「関係代名詞の主格には、何があったか覚えてるかな？」

S :「who」　S :「which」　S :「that」

T :「４人一組のグループにしてください。封筒の中に入っているカードを並べかえ、関係代名詞の文を作り、ALT に口頭で英文を伝えてください。正解したら、新しい封筒がもらえます。」

活動⑤　グループで協力して、お気に入りの人を紹介する英文を考える。【グループワーク２】

T :「グループに１枚絵を渡します。その中からお気に入りの１人を選びます。その人物について関係代名詞を含んだ英文を入れ、３～４文で書いてください。英文が完成したら ALT（T1、T2）へ口頭で紹介します。OK であれば次の絵を渡します。」

活動⑥　今日の学習を振り返る。

今日の学習を振り返り、自己評価シートに記入する。

活動⑦　次時の学習を予告する。

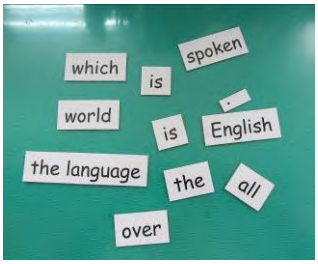
４．学び合いの例について

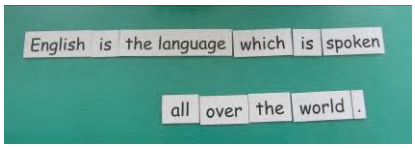
【活動④：教え合い活動の充実】

（手だて）

①積極的な教え合い活動

グループの中に sub-teacher の役割ができる生徒を必ず１人は入れる。分かる生徒が１人で進めるのではなく、お互いに援助を求めたり、質問したりできる雰囲気を作っていくことにより、グループのだれもが参加しているという自覚を持たせる。そして、分からない、自信がない生徒でも分かるように、対話をしながら進めていく。苦手な生徒も自信を持って英語を発することができる。





②「共感的な人間関係」の育成

最終的に英文を暗記する段階では、苦手な生徒にとって時間がかかる。暗記しやすい英文を割り振ったり、粘り強く教えたりすることで、対話を通してお互いに認め合いながら活動ができる。

（留意点）

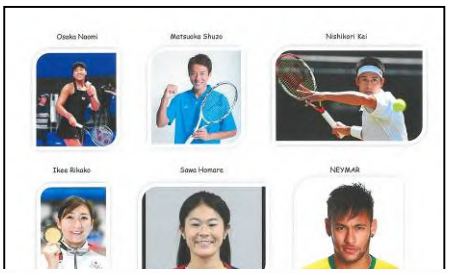
・「教え合い活動」をスムーズに行うために、Lesson の中に、教え合えるような活動を入れている。「教え合い活動」から、苦手な生徒との関わりによって「働きかけ」、「学び合い」活動へと高めていく。

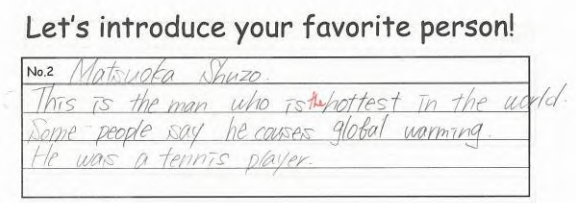
【活動⑤：学習形態の工夫（小グループ）】

（手だて）

①効果的な学習形態の工夫

英文を自分で考えて書くことになると、苦手な生徒は全く書けなくなってしまう。４人１組の小グループでの活動にすることによって、メンバーで話合いをしながら人物を選んだり、英文を書いたりすることができるため、「できた」という成就感を味わうことができる。それを積み重ねていくことで、自信につなげていく。





②話合い活動を通して自己存在感を育成する

お気に入りの１人を選ぶ時や英文を作成していく時には、グループの中で必ず対話が生まれる。絵だけの少ない情報から５文の英文を作るには、自分の持っている、または、知っている情報をメンバーに伝えていく必要がある。たとえ、英語自体が苦手でも、人物についての知識がある生徒がいればその情報も相互に支え合うという意味では、対話を通して互いの学びを可視化することになる。自分の意見や自分が作った英文がメンバーに受け入れられていくことで、学ぶ楽しさや達成感を味わわせることができる。楽しく学習することで、学習意欲につなげていく。

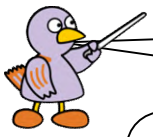
（留意点）

・グループにした時に、黒板に背を向けないように机の配置を工夫する。

中学校第３学年　英語科

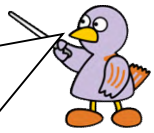
単元名　「Lesson5 Stevie Wonder -The Power of music」

取組のワンポイントアドバイス

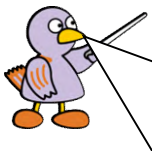


こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

校内研修でアクティブ・ラーニングについての研修を重ねました。アクティブ・ラーニングの中に手法がたくさんあり、授業を行う上でどれを使うことが効果的かということを考えました。英語部会でも話合いを進め、「教え合い活動」「話合い活動」「学習形態の工夫」に焦点を絞り、活動に取り組んできました。



「教え合い活動」「話合い活動」を意図的に取り入れはじめたころは、グループにしても個人で作業を進めている生徒が多く、「教え合い・話合い」の学習になかなかなりませんでした。そこで、グループ作成時に、グループの中に sub-teacher の役割を果たせる生徒を必ず入れ、その生徒に教えたり話しかけたりするように働きかけました。そこから「学び合い」ができるようになってきました。



３年間の取組の中で、生徒自身が大きく変わったと思う点がいくつかあります。sub-teacher やリーダーを育成していくことで、最初の頃は全く「学び合い」にならなかった生徒たちが、３年後には、教師からの指示がなくても自然と「教え合い・話合い」＝「学び合い」をすることができるようになりました。分からない生徒は分かる生徒に「教えて！」と自ら話しかけ、教わっている姿も多く見られるようになりました。また、教える側には教えるむずかしさもあるので、教えるためにいろいろと考えたり工夫したりしていました。それが結果として、学習意欲の向上につながりました。

今回の授業をするにあたっては、「教え合い・話合い」＝「学び合い」に重点を置き、授業を行いました。４人１組のグループの中に、必ず sub-teacher を入れ、教え合い活動ができるように工夫しました。英語が苦手な生徒も絵を選んだり、絵に関する情報を伝えたりすることで、話合いに参加することができていました。sub-teacher の生徒がそれらを上手くまとめ、ALT に伝えに行くときには、メンバー全員で読み方を確認し、自信を持って英語で伝えることができていました。